心房中隔厚の臨床的検討

◎谷内 亮水、徳弘 将光[1)]、川村 奏志[1)]、池田 智江[1)]、平川 大悟[1)]、中村 妙[1)]
土佐市立土佐市民病院[1)]

【はじめに】心房中隔脂肪性肥大（LHAS）は比較的まれな疾患で，高齢者や肥満者にみられるとされ，体重と心房中隔の厚さの関係も報告されている。そこで，我々は心房中隔の厚さを計測し，性別，年齢，左房容積，BMI 等と比較し，若干の知見を得たので報告する．【対象と方法】GE ヘルスケアジャパン社製超音波装置 Vivid E95 を使用し，心窩部四腔断面より心房中隔が最も伸展する収縮末期に心房中隔厚（IAST）を計測した．心房中隔の 4 か所を計測し，最も厚く計測された部分を IAST とした．対象は当院で 2021 年 2 月 17 日～2021 年 11 月 9 日に経胸壁心エコー検査を実施し，心窩部四腔断面が明瞭に描出された 113 名（女性 59 名，男性 54 名）で，心臓術後例と IAS が 19.2mm と肥厚し LHAS が疑われた 1 例を除外した．対象者の年齢は 41 歳～97 歳（78.76±10.96 歳）であった．【結果と考察】IAST は 5.67±1.25mm，IAST/BSA は 4.00±0.89mm/m^2，左房容積係数は 48.25±17.71ml/m^2，BMI は 23.23±3.54 であった．性別では，男性の IAST は 5.84±1.21mm，女性は 5.51±1.26mm で有意差を認められなかったが，IAST/BSA は男性が 3.49±0.80mm/m^2，女性が 3.89±0.91mm/m^2 で有意差が認められた．年齢と IAST の相関係数は 0.159，年齢と IAST/BSA の相関係数は 0.370 で，加齢に伴って厚くなる傾向が認められたが有意な相関は認められなかった．そこで，IAST/BSA を年代別に比べると，50 代以下と 80 代，50 代以下と 90 代，60 代と 80 代，60 代と 90 代に有意差を認め，加齢の影響が疑われた．左房容積との関係では，左房容積係数と IAST には相関は認められなかった．肥満との関係では，BMI 値と IAST に相関は認められなかった．土佐市の高齢人口率は 36%と高く，対象者の 65 歳以上は 100 名と殆どを占めていたために，偏った結果となったことが推察されたが，IAST には男女差を認め，加齢により肥厚する可能性が示された．【結語】IAST は性差と加齢との関連が示唆された．

連絡先　088-852-2151